

令和6年度 第3回藤沢市2040年問題及び長期ビジョン検討委員会

日時 2024年5月23日（木）

総務主管者会議終了後

場所 庁議室

日 程

1 開会

2 議題

（1）前回会議の開催結果について

（2）各部局による意見交換～企画政策部からの提供資料を題材にして～

（3）その他

3 閉会

（事務局 企画政策部企画政策課 内線2175）

次の会議を開催した。

会議名	第2回藤沢市2040年問題及び長期ビジョン検討委員会
開催日	2024年（令和6年）5月9日（木）14：55～16：11
場 所	本庁舎6階 庁議室
出席者	行政総務課、職員課 企画政策課長、税制課長、財政課長、防災政策課長、市民自治推進課長、生涯学習総務課長、福祉総務課長、地域医療推進課長、子育て企画課長、環境総務課長、産業労働課長、建設総務課長、都市整備課長、道路河川総務課長（欠席）、下水道総務課長、病院総務課長、消防総務課長、教育総務課長（欠席）
議 事	（1）前回会議の開催結果について （2）各部局による意見交換 ～企画政策部からの提供資料を題材にして～ （3）その他
内 容	1 開会 ○前回の当委員会において、藤沢市市政運営の総合指針改定委員会（以下、「改定委員会」という。）との役割の違いがわかりづらいといった意見をいただいた。当委員会は改定委員会と親子関係ではないが、改定委員会を補完する役割が一定あると考えている。部局・個人の立場にとらわれず、自由に発言いただく場とし、議論を深めていただきたい。 ⇒それぞれの会議名のとおり、改定委員会においては総合指針について、当委員会においては長期ビジョンについて議論していくという整理で良いか。 ⇒基本的にはその通りだが、全く別のものではないと考えている。当面は、改定委員会を補完する役割を持たせていきたい。 ⇒過去に総合指針を改定した際、各地区の郷土づくり推進会議から意見を聴取したと思うが、今回も同様に実施するか。 ⇒10月から12月にかけて実施したい。 ⇒改定委員会を補完するということは、改定委員会と同様の議論を繰り返すことになるのではないか。当委員会は屋上屋を架すことのないように運営すべきと考える。 ⇒改定委員会と内容が重複しないよう留意し、より幅広く議論する場としていきたい。議論の進め方については、随時意見をいただければと思う。 2 議事 （1）前回会議の開催結果について

内 容	≪内容≫ 企画政策課から資料１を確認するよう案内し、詳細説明については省略。 ≪主な意見等≫ なし。 (２) 各部局による意見交換 ～企画政策部からの提供資料を題材にして～ (前半部分) ≪内容≫ 企画政策課から資料２－１、２－２及び参考資料に沿って説明するとともに、午前中に開催された第３回藤沢市市政運営の総合指針改定委員会で出された意見等について紹介した。 ≪主な意見等≫ ○現行の総合指針は基本方針と重点方針の二部構成で、基本方針の中に「３つのまちづくりコンセプト」や「８つの基本目標」について記載している。改定にあたって全体の構成は踏襲するのか、それとも大きく変えることもあるのか。これから意見を出していく上で先に確認したい。 ⇒構成についてはまだ決まっていない。これまでの経過を踏まえれば大きく変える必要はないのではないかと思うが、今後の議論によって、必要があれば大きく変えることもありうる。 ⇒導入部分の「１ 藤沢市の現状と見通し」にある人口動態や財政状況、土地利用に関する記載は必須だと考える。「２ 藤沢市の特性」には、長期的な課題や、新たな視点を盛り込む余地があるのではないか。また、基本方針について市長にヒアリングする中では、「めざす都市像」及び「３つのまちづくりコンセプト」については、変更する必要はないと聞いている。「８つの基本目標」についてはまだ確認できていないが、加除や修正も含め検討いただければと思う。 ⇒資料２－１の「２ 意見提出に当たってご留意いただきたい事項」９項目には郷土愛の視点がないが、この点についてはどう考えているか。 ⇒郷土愛というとかかなり漠然としてしまうので、今回は「藤沢らしさ」という視点にした。「藤沢らしさ」とは何かかみ砕いて議論いただければと思う。 ○部内で意見を募っても、なかなか出てこないのではないかというのが率直な感想である。下水道という事業の特性上、総合指針のどこに位置づけるのか難しいと感じるので、そのあたりの違和感などを
------------	---

内 容	意見として出ささせていただければと思う。 ⇒部局によっては意見が出づらい、ということは承知している。下水道については、例えば8つの基本目標の「1 安全な暮らしを守る」に関連してくる。少し幅広く考える、視点を示す、といった方法で意見を引き出させていただければと思う。 ○前回の委員会の中で、人口推計の資料を紹介いただいた。2035年に人口のピークが来ると推計されている一方で、既に人口のピークが来ているのではないかという見方もある。今回意見を出す上で、どのようなイメージを持てばよいか。 ⇒2035年にピークが来る推計は今後の大規模開発を見込んだもので、それを見込まなければ2030年にピークが来ると推計されている。何を基準にして政策を考えていくかについては、ぜひ議論していただきたいと思う。 ○現行の総合指針は、内容が網羅的であり、具体的な施策の内容と、思想的な内容が混在している。全体の構成についてどのように考えているか。また、学識経験者からの意見聴取を行うか。 ⇒「8つの基本目標」については網羅的であり、それ自体に問題はないと考えるが、一方で「8つの基本目標」に記載のある内容が第2章の重点方針・重点事業に必ずしも反映されていないのは、今後議論の余地がある。また、施策の内容と、思想的な内容が混在しているという指摘については、具体的な箇所を挙げていただければと思う。学識経験者からの意見聴取については、今回の改定にあたっては審議会を設置してないので、正式なメンバーとして参画いただくことはないが、広聴の範囲で実施していけたらと考えている。 ⇒これまでの総合指針改定に携わった立場として発言する。平成23年の地方自治法改正により自治体の総合計画の策定義務がなくなり、これまでの総花的な総合計画ではなく、4年ごとの短いスパンで重点的な取組を示す計画をつくる、ということで総合指針が策定された。短期の重点的な取組には入り辛い人権や平和といった長期的な視点については、20年の長期的なスパンの基本方針の中に盛り込んでいくことにした経緯がある。基本方針だけを見れば、本市の特色が十分に表れていないという意見もあるが、あまり分野を絞ると逆に誤解を招いてしまう可能性もあるので、今のかたちに落ち着いている。 ⇒幅広い分野をカバーするという側面では網羅的な内容にすることの必要性がある一方、他自治体との差別化が図れないという表裏一体の関係にあると思う。そのあたりは、これまでの経過も含め、議論していければと考えている。 ○単純に職員に意見を求めても、特に若手の職員には難しいのではな
------------	---

内 容	いか。このような総合指針改定の機会は、各部局が実施していきたいことを挙げていくチャンスであると考え。職員に今後、どのようなことに取り組んでいきたいのかという視点で話を聞き、それを集約するようなかたちで行えば、前向きな意見が多く出てくるのではないかと。 ⇒今後の進め方として、まずは第１章部分を固め、その後第２章のまちづくりテーマから重点事業に繋げることになる。初めに長期的な視点づくりから入ることになるが、若手職員にとって難しいということであれば、具体的な事業がどのような長期的視点や根拠に基づくものか、管理職から示していただけると良いのではないかとと思う。 ○本市の財政状況は既に厳しい状況にある。新たな事業を実施することはもちろん重要だが、既存事業の見直しとセットでなければならないし、事業の選択と適切な実施時期の見極めも重要である。４０万人都市である本市の身の丈にあった総合指針にすべきである。（後半部分） ＜内容＞ 企画政策課から資料３に沿って説明した。 ＜主な意見等＞ ○総合指針の改定と並行して長期ビジョンの考察を行うということは、総合指針の改定は長期ビジョンを十分に踏まえないものになってしまうのではないかと懸念する。 ○今回の庁内照会は２段階に分けて行うということだが、２０４０年問題や長期ビジョンは主に基本方針に係る内容だと考える。６月に市議会に基本方針骨子案等を示した後では、大きく全体を変更することは難しいのではないかと。そのあたりのスケジュール感や見込みについてはどのように考えているか。 ⇒６月には市議会に対して全体の骨子や姿勢を示す予定だが、その際には全体の構成を変更する可能性があることも予め説明したい。今回の１回目の照会では、なるべく幅広く意見を拾い上げていただき、必要によってその内容を市議会へ報告する。また、２０４０年問題や長期ビジョンについては、第１回改定委員会資料１－１の「２ 改定作業の概要」「（１）課題の抽出と整理」「ア 分析・評価」「（ウ）外部環境の分析」に相当するものである。上半期に十分議論を行えば、１２月に報告する素案に反映できると考えている。 ⇒全体のスケジュールを考える中で、やむを得ず前後の作業過程に影響が出てくる部分もあるかと思うが、最小限に抑えるよう努めていく。
------------	--

内 容	(3) その他 ○次回の当委員会では、長期ビジョンの考察に関して意見交換をお願いしたい。 3 閉会
-----	--